

後近代の保育・幼児教育改革

スウェーデンのレッジョ・インスピレーション

2017年 12月9日（土）14:00～17:30（開場13:00）

伊藤謝恩ホール（東京大学本郷キャンパス 赤門すぐ）

スウェーデンの保育政策は、OECDによって政策のロールモデル国として高く評価され、ユネスコからも「世界で最も発展したシステムの一つ」として評価されています。その特徴は、幼保一元化および幼小接続と、両性による子育てを支える育児休業制度の実現にあります。

スウェーデンでは一連の保育・幼児教育改革が、どのようなポリティクスの中で、そしてどのような哲学のもとで進められたのでしょうか。このシンポジウムでは、ダールベリ氏の提案を中心に、後近代の保育・幼児教育改革の展開を考察したいと思います。

【司会・開会挨拶】 梶 瑞希子（聖徳大学教授・幼児教育史学会理事）

講演 14:10～16:00

幼児教育－スウェーデンの事例

すべての子どものための包括的で体系的・ホリスティックな幼児教育構築の物語

ECE - THE CASE OF SWEDEN

A story of constructing a comprehensive systemic and holistic early childhood education for all children

グニラ・ダールベリ（ストックホルム大学 名誉教授）

Prof. Gunilla Dahlberg

【逐次通訳】 平林 祥（ひかり幼稚園）



Prof. Gunilla Dahlberg

国際的議論で「保育の質」という概念に対して疑問符を投げかけ、世界の多様さ、複雑さ、曖昧さを捉えることの重要性を説く。

1999年初刊の著書

“Beyond Quality in Early Childhood Education and Care”は、未だに世界中の保育関係者に大きな影響を与えている。

パネル討論 16:20～17:20

Prof. Gunilla Dahlberg

太田 素子（和光大学教授・幼児教育史学会会長）

秋田 喜代美（東京大学大学院教育学研究科教授・同附属
発達保育実践政策学センター センター長）

【閉会挨拶】 野澤 祥子（東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター 准教授）

逐次通訳有
参加費無料
事前申込制
（先着360名）

申込方法：発達保育実践政策学センター（Cedep）の
ウェブサイトからお申込みください

URL

<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp> →



※幼児教育史学会会員の方は、
事前申込は不要です。
直接受付にお越しください。